



発行所 愛知県山岳連盟
 発行人 石川 富康
 編集人 中平等 新一
 名古屋市中白区中平3-1902
 TEL&FAX 052-802-8062

◇10月20~21日 救助技術講習会・研修会 (於・南山) <http://www.geocities.co.jp/Athlete/1653/>

東海ブロック大会に出場の選手たち



国民体育大会東海ブロック大会
 成年男・女 少年女子が本国体へ

7月21日(上)、22日(日)に国体東海ブロック大会が、ブレイマウンテン(岡崎市)と岐阜市特設山岳競技場を会場として開催されました。

競技は、1日目のボルダリング競技、2日目のリード競技で競われ、その結果、成年女子は1位、少年男子は2位、少年女子は1位となり、いずれも本国体(岐阜県開催)への出場権を得ました。成年男子は予選がないため、全カテゴリーが本国体へ出場します。本国体は、9月末より岐阜市で行われます。さらなる応援をお願いします。(杉本憲広)

6月15日(金)から17日(日)に第59回東海高等学校総合体育大会登山大会が愛知県民の森をベースに行われました。愛知県からは男子で菊里高校と時習館高校、女子で半田高校と桜丘高校が参加しました。参加チーム数は、男子が静岡2、岐阜0、三重2、愛知2、女子は静岡2、岐阜1、三重2、愛知2の合計13チームの参加でした。

今年の東海大会は、本来岐阜県で行う年なのですが、岐阜県内の高校登山部の激減により大会運営ができないため愛知県での開催になりました。結果は以下の通り。(岩狭満)

▼男子
 ①静岡県・藤枝東 ②静岡県・浜松日体 ③三重県・神戸 ④愛知県・時習館 ⑤愛知県・菊里

▼女子
 ①静岡県・静岡 ②静岡県・日大三島 ③岐阜県・飛騨神岡 ④愛知県・半田 ⑤愛知県・桜丘

▼少年男子 ① 静岡県 ② 愛知県(篠原克典(監督)、長谷川拓海、長谷川寛太(選手)) ③ 三重県

▼少年女子 ① 愛知県(大山史洋(監督)、大場美和、桑原真凛(選手)) ② 三重県 ③ 静岡県

※岐阜県は開催県なのでオー

ブンとしての出場で、上記の順位に含みません。

第59回東海総体開く

平成24年度確保技術講習会

懸垂下降システムや流動分散など
〜東屋と岩場を使って二日間実施〜

確保技術講習会が6月23日(土)24日(日)の2日間、南山の岩場に於いて午前10時から行われた。

第一日目の岩初級コースと中級コースに20人の受講者があり、初級コースのテーマ「シングルピッチでの岩登りのスタート」で、ロープワーク、アンカーの構築、アンカーの構築から登攀開始まで。午後から女岩に行き、トップの確保と自己脱出、セカンドの確保の練習をする。

また、中級コースのテーマ「マルチピッチにおけるリーダーとしての登攀技術」では、ロープの結び方、東屋周辺で懸垂下降システム、午後は、道路わきの岩に移動して自己脱出訓練を行った。

講習は午後5時で打ち切れ、宿泊先の岡崎市にある「龍溪院」に向かった。宿泊者は翌日受講の人も加わって22人となり、今日の反省や明日の講習内容について語り合い、その後、賑やかな懇談になった。

二日目、午前8時から受け付けられ、縦走コースに12人

の参加があり、岩コースと指導員の4人で始められた。

縦走コースは、午前中は計画書の確認と既図、ロープワークなどを行い、午後は悪場でフィックスロープの通過、アンカーと支点、基本的な登攀システム、搬送者の確保など駐車場広場と裏山で行った。

なお、岩コースは昨日に引き続き東屋と男岩で実施された。初級は、前日の復習としてトップが墜落した時の確保者への衝撃荷重のかかり方の確認(つなひき)懸垂下降システム、懸垂下降中の仮固定と



東屋広場でロープワーク



路肩の岩を使って実習

登り返しをし、午後は男岩に行き懸垂下降を行った。

中級は、懸垂下降、カウントラップベリリングと仮固定を女岩に移動して行い、午後は東屋でバルトタンヒッチを使って登り返しと懸垂下降、自己脱出など実施した。

講習は、午後3時まで続けられ、各班ごとに反省会がもたれた。

更に閉講式では各班の主任講師から、縦走コースの方で岩コースに行った方がいい人もいた。岩初級では、岩の登り方も実際にやったらどうか。

2日間やるためのメニューをもう少し考えては。また、中級ではロープワークだけでなく、実際の岩場で実践的なこともでき、足場の悪いところでメインロープで流動分散をし、マルチピッチの練習がで

きたので良かった。などの意見が述べられ、講習会は無事終了した。

(中平等新一)

なお、講師を担当した指導部の方は次のとおりです。
木田光彦、田邊康治、高木宏、久山千春、山本幸久、久山久、坂口公美、久保田敏康、石川まゆみ、内田博昭、岩瀬幹生、中山秀樹、高橋優
▼研修員 山本哲也、磯村雅仁、磯部誠、近藤香織(順不同)

講習会を振り返って

指導員 内田 博昭

東海地方も梅雨入りしたが、6月23日・24日の2日間は天候に恵まれた。また受講者は過去最多であろうか、土曜日は、岩登り初級9名・中級5名・検定1名、日曜日はそれに加え縦走11名、講師・研修指導員を合わせると総勢約40名が南山に参集し、確保技術講習会が開催された。

それぞれ経験豊かな講師陣により、縦走コースでは既図、ロープワーク、悪場の通過、そして岩登りでは初級・中級コースに分かれ、ロープワークや流動分散、自己脱出、懸垂下降、ピッチを分けてトップの交代や登り返しなど、丁寧な説明と確実な技術習得を

目指しての熱心な指導が展開された。

そして、夜は岡崎の龍溪院において宿泊者による懇親会が開催された。美味しい料理とお酒を囲みながら、山の会を越えて山の話と笑いの花が咲き乱れ、大いに盛り上がった。

昨年からの岩登りは2日間講習となり、特に初心者にとってはじっくり取り組むことができ、大変満足していたようである。「次はいつ講習会があるのか？」との嬉しい問い合わせもあった。

この講習会の学びをそれぞれの会で活かして、また今シーズンも安全で楽しい登山を目指していただきたい！

家でも復習したい

春日井山岳会

永井万紀子

2日間、他の山岳会の方達と楽しく講習を受けることができました。

教わった内容はクライミングにおいて基本的で重要なもので、これがきちんと出来なければ、パートナーとして信頼されたいと思います。

実際の岩場ででもできるよう、家で復習したいと思います。勉強になりました。ありがとうございました。

気象遭難対策講習会

山の天気と天気図の見方

7月1日(日)気象遭難対策講習会が県スポーツ会館大会議室に於いて行われた。講師は昨年引き続き気象予報士・上田歳彦氏(豊川山岳会)を迎え70名が受講しました。

気象予報士

上田 歳彦

昨年に引き続き中級レベルの内容として、普段からある程度天気予報解説や地上天気図について馴染みがありの方をイメージし、高層天気図を含めた天気図の読み方や遭難事例をまじえ、気象状況と山での行動判断を結びつけた講習会としました。

昨年の講習会では3割の方が難しかったと答えられていたため、分かりやすくする工夫を加えました。高校生を含め山を始められて長くない方には難しい内容だったかと反省しており、来年度はより改善をはかりたいと考えます。また大字の項目については、昨年度のアンケートより変更、補強を加えました。

1. 気象の基礎
・不安定な大気と上昇気流
・ジェット気流、気圧の谷と

温帯低気圧の発達
・観天望気：10種雲形と悪天をもたらず雲

2. 天気図の見方
・地上天気図の見方
・種々の高層天気図の見方と活用

3. 四季の気象と山の天気：
山岳遭難の事例含めて解説
・春山、秋山の天気：気象遭難の一番の原因、温帯低気圧の発達
・夏山の天気：梅雨、雷雨、台風

・冬山の天気：山雪型・里雪型、南岸低気圧
：山城ごとの天気、冬型

継続を読む

4. 今年のゴールデンウィークの気象状況を読む：予想と実況

5. まとめ：楽しく安全に登るための準備と実践

今回のアンケートでも3割の方が難しいと答えられ、特

に高層天気図については馴染みが薄いため難しいという声が多かったようです。図面を使った作業も加えて、上空の気圧の谷と寒気は500hPa a 図、下層の温かく湿った空気が850hPa a 図と活用を絞って、理解頂ける工夫をしていきたいと思えます。資料も字や図表が細かくて見辛いなという指摘が多数ありました。資料の枚数との関係がありますが改善したいと思えます。また天気が悪い時だけでなく、いい時はこういう気圧配置といった説明の要望もありました。改善していきます。

今年のGWは気象状況の悪化が引き金となった遭難が相次ぎました。愛知の仲間も残念な結果になりましたが、こういった気象起因の遭難を起ささないよう、みなさんと勉強を続けていけたらと思います。



講義をする上田歳彦氏

説得力のある講義

名古屋山岳会

有富 保之

講師の先生は気象予報士の上田歳彦先生。ご自身も現役で山に登っておられるので、どれもとても説得力のあるお話ばかりでした。

午前は気象の基礎、天気図の見方。地上天気図に高層天気図が加わることでいかに正確な情報が得られるのか良く分かりました。850hPa a 面図と500hPa a 面図の組み合わせで「気圧の谷に寒気の流れ込む様子」なども、素人の私にもなるほどよく分かりました。

午後からは四季の気象の天気や気象遭難の事例を含めたお話。2009年7月のトムラウシや、今年のゴールデンウィークの気象遭難を天気図を使って詳しい解説がありました。参加者からの質問もたくさんありました。

私も今年のゴールデンウィークは北アルプスの山に登山していましたが、「雨が降る程度の低気圧で、すぐに西へ抜けていくだろう」、くらいに思っていました。専門家の問

では「シベリア沖に動かない高気圧が存在(ブロック高気圧)」↓「そのために低気圧が東へ抜けることが出来ない」↓「すぐ西の気圧の谷を上空の寒気が流れ込んでいく」↓「一時的に強い西高東低の冬型の気圧配置」と、今回のような「悪天(急激な冷え込みと強い風)」はすでに予測されていたようです。我々が安易に新聞の「天気図」や「週間天気予報」程度で長期の山に入ってしまうことが、いかに危険なのかを知りました。

最後に、気象遭難を防ぐために「各山岳会に気象担当をおき、長期山行前に天候の予測したり情報の配信をしてあげると良い」、「急な天候に対応してリスク回避できる体力作りを普段からしておきましょう」などのアドバイスもありました。これなら我々もこれからすぐに出来るそうです。

「気象大全(山と溪谷社)」やインターネットで「HBC 専門天気図」などの紹介もありました。私も所属の会へ伝えて、仲間の事故を少しでも防ぐために活かしてみたいと思います。